

令和元年10月25日

# 二宮町教育委員会議録

( 定例会・臨時会 )

二宮町教育委員会

- 1 開会時間 9時30分
- 2 閉会時間 12時08分
- 3 教育長名 森 英夫
- 4 署名委員 岡野 敏彦
- 5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	岡野 敏彦
○	教育委員	山内 みどり
○	教育委員	渡辺 優子
○	教育委員	野谷 悦

- 6 出席者氏名
- |              |        |
|--------------|--------|
| 教育部長         | 黒石 徳子  |
| 教育総務課長       | 下條 博史  |
| 生涯学習課長       | 小島 孝紀  |
| 教育総務課指導班長    | 寺口 瑞紀  |
| 教育総務課指導班主幹   | 永井 貴幸  |
| 教育総務課指導班主幹   | 境野 朋美  |
| 教育総務課教育総務班長  | 竹本 直昭  |
| 教育総務課教育総務班主査 | 込山 久美子 |
- 7 傍聴者 4名
- 8 調整者 教育総務課教育総務班主査 込山 久美子

## 1 開会宣言

(教育長) 令和元年度10月定例教育委員会議を開催します。

### — ご挨拶 —

野谷悦委員より委員就任のご挨拶をいただいた。

## 2 署名委員の氏名

山内委員を指名する。

## 3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 10月政策会議報告及び令和元年第3回二宮町議会定例会報告を資料に基づいて行う。

(各課長) 各課の事務報告・事業予定について資料に基づいて説明する。

意見等なし

## 4 付議事項

(1) 議案第19号 令和元年度二宮町教育委員会点検及び評価報告書(案)について

(教育総務課長) 令和元年度二宮町教育委員会点検及び評価報告書(案)について資料に基づいて説明。

意見等なし

(教育長) 委員に議案第19号について諮る。

委員全員賛成により、議案第19号は承認される。

(2) 議案第20号 令和2年度二宮町公立学校教職員人事異動方針(案)について

(教育総務課長) 令和2年度二宮町公立学校教職員人事異動方針(案)について資料に基づいて説明。

意見等なし

(教育長) 委員に議案第20号について諮る。

委員全員賛成により、議案第20号は承認される。

## (2) 議案第21号 二宮町立学校に係る部活動の方針(案)について

(教育総務課長) 二宮町立学校に係る部活動の方針(案)について資料に基づいて説明

- (教育長) 担当者会、校長会を経て方針がまとまりました。ご意見はございますか。
- (渡辺委員) 確認ですが、「終わりに」の部分で「ニーズを踏まえ、適宜見直しを図る」とあります。小中一貫教育校の議論もあり、部活動の時間もそこに深く関わってくると思いますが、小中一貫教育校導入のタイミングで、一定の見直しをするという捉えでよいでしょうか。
- (教育総務課長) そうですね。部活動の休養日を設けることについて、こちらは導入したい考えですが、保護者の皆さんには賛否あるようです。まずは試行して、今後見直しをしていきます。
- (渡辺委員) 「平日も土日も毎日部活をやりたい」という熱心な意見も、保護者や先生の中にはあるということでしょうか。
- (教育総務課長) そうですね。担当者会でも賛否はありました。ただ、やる気があるから毎日やればよいということではなく、合理的・効果的なやり方を取り入れながら、休養日を設けることは出来ると考えていますので、ご理解をいただきたいところです。
- (山内委員) 実際の活動時間について現場でのご意見はどうだったのでしょうか。準備や片付けという時間もあると思いますが活動時間に含まれていますか。
- (永井指導主事) 準備に時間のかかる部活もありますが、準備や片付け、登下校の時間は「活動時間」には含めないとしています。資料の4ページの「ウ」になります。
- (山内委員) 活動時間の裏づけとしてはどういうものがありますか。
- (永井指導主事) 県のガイドラインに示されている時間を参考にしています。全体として合理的・効果的にやっていくということで合意しました。
- (山内委員) 分かりました。
- (教育長) 担当者会では、週あたりの休養日数を2日以上ではなく3日以上にしてはどうかという提案もしましたが、出席者の意見で、働き方改革や教職員の健康にも十分に配慮した上で2日以上としてまとまりました。
- (岡野委員) 実際の運用と照らし合わせながら修正することになると思いますが、ガイドラインがあることで意識が変わっていく面があるでしょう。それを期待したいと思います。まずスタートしてみて、運用してみて修正していくということでよいでしょう。
- (渡辺委員) このガイドラインは中学校の部活動が対象ですが、小学生は各地区のチームに入って各種のスポーツの活動をしています。団体によっては、土日にかなり長時間の練習をしているところがあるようです。学校の管理外の活動ですが、参考としてこの方針をお知らせ出来たらいいと思います。

(教育長) 委員に議案第21号について諮る。

委員全員賛成により、議案第 21 号は承認される。

## 5 報告・協議事項

### (2) 全国学力学習状況調査について

(境野指導主事) 全国学力学習状況調査について資料に基づいて説明。

- (岡野委員) まず、「将来の夢や目標を持っている」と回答している児童の割合が全国平均を下回っています。そこが一番気になるところです。学校の授業にしても「これ何のためにやっているんだろう」ということに悩まないで欲しいところです。「今こういうことをやると将来役に立つ」という将来が見えるストーリーが必要なのかなと思いました。理想は、将来からさかのぼって「自分がこうなりたいから、今これが必要、こういうことをやる」という気持ちになって欲しいものです。子どもたちにそう思ってもらうにはどうしたらいいのかなと思います。学校で先生が勉強を教えるだけでなく、世の中にどんな仕事があって、どんなやりがいがあるかを地域の方がストーリーを語り、子どもたちにインプットしていくことも必要なことだと思います。コミュニティ・スクールの仕組みの中で、地域の方がゲスト・ティーチャーとしてそれを語るような工夫が必要だと思います。
- (教育長) この結果はすこし淋しいですね。例えばはじめの問題などがあると、細かな子どもたちの一挙手一投足に眼を見張っていて、不適切な言動があれば指導に入らなければなりません。そうした中で、教員は、どちらかというところ「大きな夢を語る」とか「将来へ個性を伸ばす」ことより、ルールを守らせるようなことに意識が傾いているのかなと感じます。もちろんそれは大切なことですが、二宮らしい地域に出て行く子を育てる方にももう少し向かったらいいなと思います。小学生は、確かに学力的な結果は全国平均より低いのですが、地域行事への参加率は高くなっています。中学生では逆になります。中学生は、学力をつけなくてはいけないという一方で、自由な活動を制約されているような印象を、この結果から受けました。
- (渡辺委員) 「学校に行くのは楽しい」と回答した子どもが小学校 80 パーセントで、そこが一番気になりました。夏休み中にあった小中一貫教育の研修会で講師の先生が「学校は生き方学び方を共有するところ」と仰っていて印象に残っています。家庭環境や保護者の考えが多様化していて、100 パーセントを目指すのは難しい時代なのかもしれませんが、特に小学校は、友達と遊びや給食の時間が楽しみだからということでも良いから、「楽しい」「安心して行ける」と思ってもらいたいものです。一方で 90 パーセントの子どもが「学校の決まりを守っている」という回答をしていますから、その差が悲しいと思います。これから小中一貫教育で「目指す子ども像」を実現していこうという中、この「現状 20 パーセントの小学生が楽しいと思っていない」ことを受け止めて、配慮していくことを並行して取り組んでいかなければならないと感じました。
- (野谷委員) 学校現場の状況が全てわかっているわけではありませんが、「将来の夢や

目標を持っている」という回答が低くなっている理由に、小学校では、総合的な学習の時間が低調になっている状況が挙げられると思います。地域の人との出会いで自然に「あの人がみたいになりたい」と思うような機会が、結果として少なくなっている危惧があります。「問題たたき」のような現状があって、「問題を起こさないように」という現場の苦しいところが伺えます。

- （山内委員） 資料を見て、真っ先にドキッとしたのは「学校に行くのが楽しい」という回答の割合が低いことです。何はともあれ学校へ行くのが楽しくあってほしいと思いますが、年々子どもが多様化していく中で、先生方の苦勞を感じます。今週のことですが、ゲスト・ティーチャーとして小学校で音楽祭のお手伝いをしました。今、学校には若い先生が多くなっています。やる気も体力もある先生が多いと思いますが、教えるスキルが未熟という先生もいれば、既に高いスキルを持った先生もいます。子どもたちの多様性に先生方は悩んでおられるようです。ニュースを見ても心が痛みます。小中一貫教育の導入で、適材適所の先生の配置や、先生方の交流の活発化が早めに進んでいくと良いなと思います。地域に出ている割合が小学生の方が多いいのは「保護者に連れられて」ということでもあると思います。若い世代の保護者は地域の活動に熱心な方が多いようです。中学生になると自分で参加するか決めるようになり、割合として下がっていくのかなとも思います。魅力ある学校と共に魅力ある地域行事ということもこれから工夫していく必要があると感じます。
- （岡野委員） もう一つ気になったことがあります。資料の3ページですが、中学校の数学で課題が見られる設問に「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」という設問が挙がっています。ここはとても大切なところだと思います。数学はきちんと答えを出していく学問という印象もありますが、エンジニアという仕事を通じて感じることは、全体をざっくりと捉える力量が必要であることが多いということです。そういうところを重点的にやるとか、先生方の情報交換も必要だろうと感じました。本日の付議事項である人事異動方針の中に「広域的視野に立って」という言葉があります。人的に広域ということもありますが、時間的広域というものもあると思います。これからの時代は仕事が細分化・専門化していくことが増えていき、細部はスペシャリストや機械に任せられるようになることが多くなるでしょう。逆に全体を捉えるスキルが重要になってくると思います。「課題が見られる設問」を意識して、これから重点的に授業をしていくよう願います。
- （教育長） 重要なご意見をいただいたと思います。ありがとうございます。

### （3）二宮町小中一貫教育校設置計画（案）の今後の対応について

（教育総務課長）二宮町小中一貫教育校設置計画（案）の今後の対応について資料に基づいて説明。

- （教育長） まず、配置比較表を次の意見交換会でお示ししてよいかということをお伺いします。事務局で、さらに改良を加えていきますか。
- （教育総務課長） 基本的にはこの内容で提示したいと思いますが、各案では学校の配置はこうなりますという地図をつけて示したいと考えています。
- （野谷委員） 質問と意見があります。まず質問ですが、F案では、一色小学校は「義務教育学校」とあります。施設一体型の小中一貫教育を進めれば、自然と義務教育学校のねらいと同じものになっていくだろうと思いますが、ここであえて「義務教育学校」とうたうには、特別な理由があるのでしょうか。次に意見です。評価項目の「既存校舎を利用できる」についてです。判定が△のものは、新設で、財政的な問題も含めて困難な問題を抱えているということだろうと思います。「二宮町小中一貫教育校設置計画（案）」に出てくる校舎・体育館の耐用年数を見ると、二宮中学校の東棟や一色小学校北棟は数年後には、耐用年数が来てしまいます。◎の評価がついている案も、既存校舎に大幅な改修が必要になるならば、それを含めて評価してはどうでしょうか。
- （教育総務課長） まず、ご質問についてです。いずれは義務教育学校を目指すということも考えられます。義務教育学校では小中学校両方の免許を持った教員が必要です。施設一体型の小中一貫教育校として小学校と中学校を置くと、小学校の校長先生と中学校の校長先生が必要です。3施設で5校の案ですと、校長先生は小・中学校で4人、義務教育学校で1人と、小中学校で5人の校長先生がいる現状と同じ人数になります。既存校舎の耐用年数については、委員のおっしゃるとおりで、来年度調査をすることを予定しています。◎となっている部分の書き方については、○として、「調査結果によっては大規模な改修が必要」と注をつけるなどして正確に記すとしてはどうでしょうか。
- （教育部長） たしかにこの案から「義務教育学校」が出てきています。これまで、「施設一体型の小中一貫教育を目指す」ということで検討しましたので、義務教育学校の案はありませんでした。義務教育学校を目指すことになれば、改めてご説明が必要と考えます。このF案ですが、意見交換会での「学校を残してほしい」というご意見を受けて、どうしたら残せるかを考えた結果、一色小学校を義務教育学校という案を作成しました。現在の小学校区ごとに小中一貫教育校を置くとすると、二宮小学校と二宮中学校が一緒になり、山西小学校と二宮西中学校が一緒になったとして、一色小学校と一緒になる中学校がありません。それならば、義務教育学校にして中学生を受け入れれば3つの小学校区で教育を担うことができるのではないかという案がF案です。
- （野谷委員） 中学生が同じところに通える条件ということで、義務教育学校という案ですね。
- （教育部長） そうです。
- （教育長） 当初の計画A案では、一色小学校に中学校を持ってくることで、一色小学校の卒業生が両方の中学校に分かれることがなくなるという提案をしました。しかし二宮西中学校・山西小学校が一色小学校へ併せることについては、いかがかと言う意見が多く

出ました。それを受けて、義務教育学校の制度を取り入れて一色小学校の施設で中学校の3年間を過ごす形にしてはどうかということです。校長の人数が増えることには県との調整においてハードルが高いという面があります。中学生が同じ場所を通える体制として、義務教育学校で校長は一人という案になりました。

- (山内委員) この資料はとても分かりやすく出来ていて、まずそこを評価したいと思います。ただ、点検評価報告書の外部委員のコメントにもありましたが、コミュニティ・スクールにはまだまだ地域の理解が必要という現状で、あまり詳しくない方にも一目瞭然な資料としては、説明しなければいけないことが多いように思います。義務教育学校についての説明も必要だと思いますので、この資料を出す時期はもう少し先で良いのではないのでしょうか。それから、小中一貫教育にする魅力をこの資料で見たいと思いました。学校統合ではなく、小中一貫教育にする意味があるから二宮町はそちらへ向かおうとしているわけですから、「輝く未来」「わくわくする未来」が見えると良いと思いました。「残す」という言葉に対しては「残らない」という言葉になるので、表現を改めたらどうでしょうか。

また、9年間のメリット、中1ギャップの解消などが出来るかどうかを、評価項目に入れたらどうでしょうか。一回目の意見交換会で小中一貫教育については理解を得られたと思います。向かっていくビジョンに対する評価、これだけの案の中でより良い案はこれという項目が入ると良いと思いました。

- (教育総務課長) 9年間のメリットに繋がる項目は今の評価項目にもありますので、本日の協議を踏まえて修正したものを、意見交換会の前にお示ししたいと思います。
- (山内委員) 小中学校で交流ができるので中1ギャップが解消できるというように書ければ良いと思います。もうひとつ質問ですが、小学校を1校にする案が2案ありますが、スクールバスなど対応できるのでしょうか。
- (教育部長) 数年内に開校するとして、千人規模の学校になり、文部科学省の示す適正規模を超える学校になってしまいます。また、千人規模の学校を作っても、その数年後には子どもが減っていくことが想定されます。
- (教育総務班長) 40人学級で12~18クラスが適切とされています。小学校で1学年3クラス、中学校で1学年6クラスまでです。
- (教育長) 中地区管内で千人前後の児童数の小学校は2つあります。非常に大きく、規模としてはぎりぎりかなという印象です。
- (野谷委員) 過去には二宮町の学校も千人規模だったこともありましたが。教職員間の連携が難しくなるとか、規模が大きいと生じる問題もありますね。
- (教育長) 教職員が多くなるので、職員会議でマイクを使わないと声が通らないというようなこともあるようです。
- (山内委員) 意見交換会で、新設校の案が出たのは、どこかの小学校だけがなくなった、動かなくてはいけないのではなく、全ての小学生が同じ条件で移れば、希望の未来になる



というご意見だったと思いますので、大きな学校が可能なのかというのを確認させていただきました。

- (岡野委員) まず、このようにまとめていただきありがとうございます。資料の上部に、重要な視点①②③があり良いと思います。付け加えて「小中一貫教育で実現したいことは次のふたつです」と、つまり「最大9歳差の年齢の広域バンドを活かしたメリット」と「中1ギャップの」解消の2点ですね。それを実現する為の評価項目として、細分化していけるとと思います。

次に評価項目ですが、この評価項目を整理して、ハードウェアに関する項目として「学校インフラ」、登場人物に関する項目として「児童生徒」、「教職員」「在校生保護者」「地域」という大項目をつけたらどうでしょうか。先生から見ると相互乗り入れの授業という点、子どもたちの視点では、通学距離や安全性があります。地域の視点では、防災拠点としてみたときにどうかという点を入れてはどうでしょうか。

項目によってはコメント欄の記載内容がまったく同じ評価というものがあります。評価項目は必ず優劣がつくレベルまで課題レベルを掘り下げて表現した方が良いと思います。複数学級が作れるといってもかろうじてできるのか余裕があるのかという程度の差があるでしょうから、その差をここで表現した方が良いと思います。次に学区再編についてですが、この資料中に具体的な地区名がありますが、地区との合意形成はまだですから、その点の注意書きか何かあった方が良いでしょう。最終的には、この資料が一人歩きしても誤解を招かない工夫が必要かと思います。俯瞰して見られる状態になったことはとても良いと思います。具体的な項目にはもう少し精査をお願いします。

- (教育総務課長) 東西で分けるC案の西側には一色小学校も考えられますね。そこは追加したいと思います。文言なども含めご意見を反映したいと思います。さらにご意見があればお寄せください。

(永井指導主事) 小中一貫教育校の具体的な活動(例)を資料に基づいて説明。

- (野谷委員) 時間割の資料ですが、子どもの部分についての資料は出しても、教員の部分の資料は時期尚早だと考えます。授業の乗り入れをして学力向上を図り、中一ギャップを解消する、その意図はよくわかります。小学校の教員の立場から見ると、突然「バスケットボール部の顧問を任される」ということになりますので、もう少し時間をかけて話し合いながら分担を決めていく方が良いでしょう。
- (渡辺委員) 現状、教員の長時間労働が非常に問題になっている中、小中一貫教育校を導入することで負担の軽減に繋がることは、しっかりメリットとして伝えていくべきだと思います。また、小学校の先生にとっては、部活を押し付けられるという印象が生まれなかなと心配します。部活動のあり方が今後変わっていくことも予想されますが、先生のキャパシティは変わりませんから、丁寧に説明をお願いします。

- （教育総務課長） 今回の資料は、イメージとして分かりやすく示す為、すこし極端な例でもありますので、勤務時間が変わらないことをきちんと示せるような丁寧な対応はしたいと思います。
- （岡野委員） メリットには、あらかじめ予想できる想定内のメリットがあるのですが、「やってみたらこういう点良かった」という想定外のメリットもいずれ出てくるでしょう。デメリットも、想定されるもの想定されないものがあるはずです。私たちが現時点で予想できない想定外のことについては、子どもたちにどういうことをやってみたいか尋ねてみるのも一案ではないでしょうか。想定外のメリット・デメリットが出てきたときに、子どもたちの声を拾って、より良くしていく姿勢が大切だろうと思います。
- （教育長） 同じ言葉が並んでいるところは、まとめていいと思いますがいかがでしょうか。
- （岡野委員） 比較案の決定分析表も同様のことが言えると思います。同じ枠に分類される項目は大項目でまとめて、一つの枠に入る言葉は最小限にすると違いがよく分かります。また並びは、現状が一番左で、一校案が一番右という学校数の流れが見える方が、全体を捉えやすいのではないのでしょうか。
- （教育総務課長） 現時点で示す資料として、出来るだけ色をつけずに並べて出したいという意図があります。
- （岡野委員） 優劣をつけるということではなく、何らかの基準で並んでいるということが重要だと思います。現状は五校体制、究極的には一校体制になるでしょうから、例えば学校数の順番で表記すれば現状から究極までを見通せるという意味です。
- （教育長） 時間割例の資料は先ほどのご意見を受けて検討しますが、意見交換会の資料としてよろしいでしょうか。  
（委員同意）
- （渡辺委員） 最後に一点よろしいでしょうか。意見交換会を経て、このように複数の案を提示することになりました。この資料にある「重要な視点」が本当に重要だと感じています。これから決断をしていかなくてもなりません、柔軟さがあるのはすごく大きいことです。例えば、既存校舎の活用は○という面もあるけれど、調査をしてみたら、この校舎は補強ではなく建て替えという結果になるものも出てくるかもしれません。計画の変更はこの先もあり得ることです。確実に押さえていただきたいところです。また、評価項目については、重要な視点をクリアできるかを優先順位として見えてくるような表になると良いと思います。

#### （４）民法改正後の成人祝賀会について

（生涯学習課長） 民法改正後の成人祝賀会について資料に基づいて説明。

- （岡野委員） 「成人」という言葉よりも「二十歳(はたち)」という言葉の方がいいと思

います。

- （野谷委員） 事務局の説明で充分論議されていると思います。従来のまま二十歳でよいと考えます。

#### （５）その他

##### － 次回教育委員会予定 －

（教育総務班長） 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

##### － 傍聴者退席 －

#### ５ 報告・協議事項

##### （１）令和２年度当初予算教育部予算要求について

（教育部長） 令和２年度当初予算教育部予算要求について資料に基づいて説明。

##### － 非公開 －

12時08分 閉会